新学習指導要領における俳句の教材的価値に関する研究

國原　信太郎・横道　誠

Haiku in the New Curriculum Guidelines and Its Educational Value.

Shintaro KUNIHARA, Makoto YOKOMICHI

教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要

第４号 （2022年１月）

Journal of Educational Research
Center for Educational Career Enhancement

No.4（January 2022）

新学習指導要領における俳句の教材的価値に関する研究

國原　信太郎＊・横道　誠＊＊
（＊京都教育大学附属京都小中学校・＊＊京都府立大学）

Haiku in the New Curriculum Guidelines and Its Educational Value.

Shintaro KUNIHARA・Makoto YOKOMICHI

2021年８月４日受理

抄録：本研究では，俳句教材の有用性を再考し，鑑賞を通じた学習プログラムが，生徒の資質・能力の育成に有効であることを明らかにすることで，その教材的価値の高さを実証することを目的とした。そのために，まず，俳句が日本のみならず海外でも親しまれていることや，特別支援教育においても活用されていることに着目することで，俳句教材の有用性を考察した。次に，鑑賞を通じた学習プログラムにより，どのような言葉に着目して，俳句の鑑賞が進められているのかということを分析することで，生徒の思考過程を追った。それをもとに，どのような資質・能力が，どのように形成されているのか分析した。とりわけ，新学習指導要領において教科の本質的な意義とされる「言葉による見方・考え方」が働く場面における資質・能力の形成過程を探ることで，俳句教材が資質・能力の育成に有効であることを明らかにした。

キーワード：俳句教材　教材的価値　新学習指導要領　資質・能力　言葉による見方・考え方　教科書比較

Ⅰ．はじめに

藤井ら(2008)は，「俳句の指導も，国語科の指導目標と同じく，言語による表現・理解の能力を高めることに目標が認められる」と，俳句を教材とする際の学習目標を明確に示し，俳句を「従来の文学教材（小説・物語・童話・詩など）と同じである」と，その教材的価値の高さを評価している。また，頼岡(2013)は，「短歌・俳句は，限られた字数の中で，ある心情や情景を描き出すために，修辞法や表現技法に工夫を凝らし一語一語を吟味し尽くして表現されている点で，ことばの持つ力を実感させるのには最適な教材」であると述べ，近現代俳句の鑑賞と創作の両面からの学習を通じて，生徒の表現力に変容が生じたことを明らかにしている。このような先行研究に鑑みると，俳句は，作品に用いられている言葉こそ少ないが，小説や物語といった文学教材と同様，言葉の能力を高め，言葉の持つ力を実感させるために非常に有意義であることがうかがえる。さらに，藤井は，俳句教材の意義として「作品中の言葉の繋がりに着目できる」，「言葉の拡充ができる」，「省略について考えることができる」というようなことを挙げている。

確かに俳句は，5･7･5の17音しか用いられていないため，作者の思い描く情景や心情は，限られた言葉で断片的に表現され，そこにはある種の空白のようなものが存在する。外山(2010)は，限られた言葉で断片的に表現される俳句を，抑制と省略による余韻を求めた詩学の代表と言っている。また，作者がそこに自らの意図を伝達できると感じているのは，読み手への限りない信頼をもとにしているとし，作品における読み手の自由度の高さも指摘している。このような特徴のある俳句の鑑賞では，17音という限られた言葉の意味や働き，使い方等を

とらえたり，問い直したりすることで，抑制と省略によって生じた空白を，読み手自身が埋めていかねばならない。そのため，俳句の授業では，相互鑑賞を通じて作品の空白を埋めていくという実践が多い。例えば，吉樂（2013）は，「省略されている部分が多く情報量の少ない俳句の鑑賞では，根拠を明確にして自分の考えを示す力がより強く求められ，そのような力を育むことができる」と述べ，俳句の鑑賞が，根拠を明確にして自分の考えを説明する力を高めることに有効であることを，鑑賞文の指導を通じて明らかにした。また，林(2011)は，「句会という授業形態を活用した俳句の鑑賞は，子どもたちの言葉を磨き，討議力を高めることができる」と述べ，俳句の鑑賞・批評により，語彙力や言語感覚を高めることができたとしている。ところが，これらの実践は，従来の学習指導要領下で行われた実践であり，令和 3 年度より全面実施される中学校学習指導要領（以下「新学習指導要領」と略称）で教科の本質的な意義とされる「言葉による見方・考え方 」を働かせることで，資質・能力がどのように形成されているのかということは明らかにされていない。

そこで，本稿では，俳句教材の有用性を再考し，鑑賞における生徒の思考過程を可視化していくことで，「言葉による見方・考え方 」がどのように働き，どのような資質・能力が形成されているのかということを探る。そこから，俳句教材が資質・能力の育成に有効であることを明らかにし，教材的価値の高さを実証することを目指した。

Ⅱ．俳句教材の有用性

1 俳句の海外展開から俳句教材の有用性を探る

俳句は，日本の伝統的な文化のひとつであるが，もはや日本だけの詩形ではなく，世界的にも広く知られた短詩型文学である。現在では，英語等の非日本語による 3 行詩が「Haiku」と称され，世界でも親しまれている。海外での俳句創作は，20 世紀初頭から行われていた。アジア人初のノーベル文学賞受賞者，インドのラビンドラナート・タゴールや，英国モダニズム文学の代表的詩人エズラ・パウンド，ドイツ・モダニズム文学の代表的詩人ライナー・マリア・リルケなどが俳句を試みた先駆者にあたる。

日本語以外で創作される俳句では 5・7・5 のシラブルの制約が無く，季語がないことも多いため日本の俳句とは若干その形式が異なり，これといった規範が存在しない。外国語による俳句の規範は，現在も模索されつづけているというのが正確であると言える。たとえば，マツオ・アラードは一行詩としての英語俳句を試みた。

alone tonight one fish ripples the lake [1)]　（今宵はひとり魚が一匹みずうみで波紋を起こす）

これを俳句らしく訳せば「みずうみの波立つ先に夜の魚」といったところである。コア・ヴァン・デン・フーヴェルはたった一語による英語俳句を提示した。

tundra [2)]　（ツンドラ）

この一語で「ツンドラ」，すなわち地下に永久凍土が広がる広大な平野を想像させるのである。日本でも無季俳句と呼ばれる作品があるが，海外の俳句では，季語をどのくらい重視するかについても，さまざまな意見がある。原則論としては，季語(season word)を入れることになっているが，ここには厳密なルールではなく，無季語となる俳句の方が多いと言っても過言ではない。これは，海外では日本のように四季が明確ではなく，さらには，自然条件も異なるため，季節を表すような言葉を用いることが難しいからであると考えられる。ここから，原則論として季語を用いる日本の俳句教材では，修辞以外にも，季語とその周りのある季感のようなものを学べることに大きな有用性があると言える。

なお，横道は英語およびドイツ語を用いた教育の現場で，① 5･7･5 のシラブルを原則として守る，②季語を用

いなくても良いという条件で，ドイツ語俳句や英語俳句の創作を課題に設定することがある。対象は大学生であるが，日常の何気ない気づき，そこに生まれる情感などを短い言葉で表現することに大きな学びが生じる。また，限られた言葉で断片的に表現された作品を鑑賞し合うことで，その作品に描かれた世界観に迫っていくというのは，日本語で創作された俳句も，日本語以外で創作された俳句も同じであり，そこにこそ俳句教材の大きな有用性が存在すると言える。

2 特別支援教育から俳句教材の有用性を探る

俳句は，特別支援教育においても教材としての有用性が考えられる。近年では自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠如・多動症（ADHD）の障害を，「脳の多様性」（ニューロダイバーシティ）の観点から，障害としてではなく，脳の神経構造の少数派として理解しなおそうという機運が高まっている 。この「脳の多様性」という観念を教育活動の前提に据えて考えるならば，障害を持つ生徒が抱く自分の世界観を言葉で表現したり，もしくは，自分の世界観を言葉で広げたりすることに俳句教材を活用することができる。

実際，渡辺(2014)は，特別支援学校において句会を実践し，俳句という限られた言葉で表現する学習活動により，障害を持つ生徒自身が抱く世界観を言葉で表現したり，広げたりすることが可能であると論じている。さらに渡辺は，障害を持つ生徒が表現するその世界観を「変わった」とか「面白い」とかいうように捉えるだけではなく，独自の回路で自らの世界観を表現していることに指導者は気付かねばならないと述べている。とするならば，障害を持つ生徒に俳句を創作させることは，生徒の内面世界を言葉で実感することに繋がり，障害理解を促すことにも繋がるのではないかと考えられる。

もちろん，特別支援教育においては5･7･5という表現にするまでに大きな支援が生徒に必要となる。しかし，少ない言葉で表現できることで，書くことが苦手な生徒にも抵抗が少なくなる。さらには，自分たちが創作した俳句を互いに鑑賞し合うことで，その内容にお互いに共感したり，お互いの内面世界を認めたりすることができるということを考えれば，俳句教材は，特別支援教育はもちろん，それ以外のさまざまな教育活動においても大きな有用性があると言える。

Ⅲ．令和３年度改訂教科書の比較

1 令和3年度改訂教科書の特徴

令和２年度までの学習指導要領を元に作成された５社（2021年度，学校図書は休刊）の検定済み教科書（中学校国語）を調べると，俳句教材の指導領域は，全ての教科書で「読むこと」のみが領域となっている。「話すこと・聞くこと」，「書くこと」といった領域や，「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」にまで指導領域や指導事項が至る教科書はなかった。このような構成の教科書を活用して俳句の授業を進めるならば，どうしても「読むこと」，すなわち鑑賞や解釈が中心となるような授業が展開されてしまい，作句の指導にまで及ばない。また，どの教科書会社も，俳句の学習に充てる授業時数が，２～３時間と非常に少ないため，時間的にも作句の指導が厳しい状況になっていた。

ところが，令和３年度に改訂された教科書（中学校国語）を見てみると，三省堂以外の３社が，俳句の単元に関して「書くこと」にまで指導領域を広げている。その三省堂以外の３社は，どの出版社も「句会」と言う言葉を用い，「句会」を活用した学習活動により「書くこと」に学びが至るように工夫されている。これはすなわち，従来の鑑賞や解釈が中心となる授業が改善され，指導を作句にまで及ぼすことができるようになったということ

である。ただし，俳句に充てる授業時数は従来と変わらないため，「句会」を行うのであれば，指導者がどこからか指導時間を捻出しなければならないという課題も残る。なお，三省堂では「句会」という言葉はもちいられていないが，「夏井いつきの赤ペン俳句教室」というコラムを掲載しており，そこには自らの発想をいかして俳句を創るには，どのような言葉の選択をすると良いのかということが書かれている。「句会」こそ扱われていないが，ここでもやはり「書くこと」が取り上げられているため，全ての検定教科書で，俳句の単元に関する指導領域が大幅改善されたと言え，これは，今回の教科書改訂で最も意義深いことのひとつであると言える。

2 令和3年度改訂教科書掲載俳句の比較

新学習指導要領に合わせ，令和３年度に改訂された，東京書籍，三省堂，教育出版，光村図書の中学３年生向け国語教科書が掲載している俳句を一覧にすると表１のようになる。

（表1）令和3年度改訂教科書に掲載されている俳句一覧（國原作成）※斜体太字は，令和3年度改訂教科書より掲載された作品

新しい国語3（東京書籍）		国語3（光村図書）	
たんぽぽや日はいつまでも大空に	中村汀女	どの子にも涼しく風の吹く日かな	飯田龍太
囀をこぼさじと抱く大樹かな	星野立子	いくたびも雪の深さを尋ねけり	正岡子規
をりとりてはらりとおもきすすきかな	飯田蛇笏	跳び箱の突き手一瞬冬が来る	友岡子郷
春風や闘志いだきて丘に立つ	高浜虚子	たんぽぽのぽぽと絮毛のたちにけり	加藤楸邨
万緑の中や吾子の歯生え初むる	中村草田男	分け入つても分け入つても青い山	種田山頭火
赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり	正岡子規	赤い椿白い椿と落ちにけり	河東碧梧桐
冬菊のまとふはおのがひかりのみ	水原秋桜子	バスを待ち大路の春をうたがはず	石田波郷
分け入つても分け入つても青い山	種田山頭火	萬緑の中や吾子の歯生え初むる	中村草田男
		飛び込みのもう真っ白な泡の中	神野紗希
		くろがねの秋の風鈴鳴りにけり	***飯田蛇笏***
		金剛の露ひとつぶや石の上	川端茅舎
		冬菊のまとふはおのがひかりのみ	水原秋桜子
		流れ行く大根の葉の早さかな	***高浜虚子***
		咳をしても一人	尾崎放哉
		古池や蛙飛び込む水のおと	***松尾芭蕉***
現代の国語3（三省堂）		**中学伝え合う言葉 中学国語3（教育出版）**	
斧入れて香におどろくや冬木立	***与謝蕪村***	***渡り鳥みるみるわれの小さくなり***	***上田五千石***
桐一葉日当りながら落ちにけり	高浜虚子	***おおかみに螢が一つ付いていた***	***金子兜太***
秋つばめ包のひとつに赤ん坊	***黒田杏子***	***ずぶぬれて犬ころ***	***住宅顕信***
ぬうぬうと秋かき混ぜる観覧車	***藤本敏史***	***火焔土器よりつぎつぎと揚羽かな***	***堀本裕樹***
林道の朽ちし廃バス額の花	***村上健志***	***夏草やベースボールの人遠し***	***正岡子規***
囀りをこぼさじと抱く大樹かな	***星野立子***	***春の浜大いなる輪が画いてある***	***高浜虚子***
菜の花がしあはせさうに黄色して	細身綾子	***木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ***	***加藤楸邨***
谺して山ホトトギスほしいまま	***杉田久女***	***秋草にまろべば空も海に似る***	***木下夕爾***
万緑の中や吾子の歯生え初むる	中村草田男	***蛍獲て少年の指みどりなり***	***山口誓子***
芋の露連山影を正しうす	飯田蛇笏	万緑の中や吾子の歯生え初むる	中村草田男
星空へ店より林檎あふれをり	橋本多佳子	***卒業の兄と来てゐる堤かな***	***芝不器男***
いくたびも雪の深さを尋ねけり	正岡子規	***ものの種にぎればいのちひしめける***	***日野草城***
小春日や石を噛み入る赤蜻蛉	***村上鬼城***	***蝌蚪に打つ小石天変地異となる***	***野見山朱鳥***
分け入つても分け入つても青い山	種田山頭火	***泥鰌浮いて鯰も居るというて沈む***	***永井耕衣***
入れものがない両手で受ける	尾崎放哉	***この道しかない春の雪ふる***	***種田山頭火***
		一日物云はず蝶の影さす	***尾崎放哉***
		戦争が廊下の奥にたってゐた	***渡辺白泉***
		かぶとむし地球を損なわずにあるく	***宇田喜代子***
		よし分かった君はつくつく法師である	***池田澄子***

東京書籍は，有名俳人のオーソドックスな句が並ぶが，他３社に比べ掲載されている作品数が少ない上に，若干古い句のみが並ぶ。その東京書籍の対極にあるのが三省堂と言える。三省堂は，現在各種メディアで活躍している俳人夏井いつきによる俳句の解説文を掲載し，さらには芸能人による創作俳句も掲載することで，生徒が興

味・関心をもって学習に取り組めるように工夫されている。俳句というと，季語，切れ字，歴史的仮名遣い等，5･7･5 の定型以外にも暗黙の枠のようなものが存在し，なんとなく古めかしいとか難しいとかいう先入観を無意識に生徒は感じてしまう。実際，東京書籍に掲載されている作品を見ると，星野立子の「囀をこぼさじと抱く大樹かな」（「続立子句集」，1947）が最も新しい作品であるが，令和に学ぶ生徒にとってみると，古めかしさとか難しさを感じざるをえない。しかし，自由な感覚で詠まれた新しい時代の俳句，または，俳人ではない者により詠まれた俳句を掲載する三省堂では，俳句の古めかしさとか難しさだけを感じることはない。

光村図書では，有名俳人のオーソドックスな句に加え，季節によって俳句を分類したり，現在も活躍する俳人神野紗希による作品を掲載したりしている。三省堂ほどではないが，古めかしいとか難しいとかいう俳句に対する先入観を持たせないような工夫がほどこされている。

教育出版は，全社で掲載されている中村草田男の「万緑の中や吾子の歯生え初むる」以外は，令和 2 年度までの教科書と掲載作品が全て変わっている。これはかなり思い切った改訂であるが，その理由までは，はっきりしない。しかし，「伝え合う言葉 中学国語 3」（教育出版）の「編集趣意書」を読むと，「編集の基本方針」の俳句に関する部分では，「価値ある教材，話題にふれ，国語科としての感性や情緒を高める」とあり，さらに，「特に意を用いた点や特色」の俳句に関する部分では，「優れた表現の近代俳句を読むことを通して，豊かな情操を培い，わが国の伝統と文化を尊重する態度を養うことができるように配慮」とあることから，感性や情緒，情操を養うことには俳句教材が有用であると考え，掲載作品の全面改訂に至ったのではないかと推測できる。

以上のように，教科書会社により掲載されている作品やその傾向は様々である。あらゆる文学作品と同様に，俳句作品に関する評価は多様であるため，そのこと自体は当たり前のことである。しかし，俳句は，古い（歴史がある）から良いとか，俳人による作品だから良いというような単純な評価ができるわけではなく，新しい作品の中にも，俳人でない者が詠んだ作品の中にも，評価に値する作品は数多く存在する。むしろ今を生きる我々にとってみれば，今を題材とする作品に共感し，過去の作品よりもそちらを評価することもあるはずである。であるならば，我が国に伝わる伝統的な文化を守るような作品に加え，令和の時代に詠まれた，しかも俳人ではない者の作品まで掲載している三省堂は，俳句単元に関しては非常に良いバランスで構成されており，教材としての価値は非常に高いと言える。

俳句指導にあたっては，上述のような教科書の特性に鑑み，掲載されている作品だけを教材とするのではなく，時には他社が掲載している作品や，これまでに掲載されたことがないような作品を用いることで，より充実した俳句に関する学習プログラムを実現することができるはずである。そして，そのようにして構成された学習プログラムを進めることで，生徒の俳句に対する興味・関心を大きく高めることができ，その結果として，学びに向かう力や思考力・判断力・表現力といった資質・能力を育むことが可能になると考えられる。

Ⅳ．鑑賞を通じた学習プログラムの概要と考察

1 学習プログラムの概要と分析方法

1）本学習プログラムの具体と仮説

今回の学習プログラムでは，「古池や蛙飛びこむ水のおと」を教材として用いる。この句は，誰もが知る芭蕉の句であるが，光村図書のみが教科書に掲載しており，他の 3 社は掲載していない。この芭蕉の句が，俳句の代名詞とも言われ，江戸時代から令和である現代まで脈々と受け継がれてきた事実を

考えると，この句には，大きな魅力が潜んでいることが容易にうかがえる。実際，光村図書では「名人に学ぶ俳句の作り方」と題して，この句が紹介されている。ただし，コラムでの扱いであるため，授業では軽く扱われたり，授業時数次第では扱われなかったりする可能性も高い。そこで，今回の学習プログラムでは，教科書への掲載が少なく，扱いも大きくないが，日本で最も有名であると言っても過言ではないこの芭蕉の句の鑑賞を通じて，その魅力を生徒に探らせる活動を行った。

学習プログラムの具体は，「古池や蛙飛びこむ水のおと」をただ鑑賞させてその魅力を探らせるのではなく，「古池に蛙飛びこむ水のなか」という芭蕉の作品を指導者が改めた（改悪した）句と比較鑑賞することで，芭蕉の作品の魅力を探らせることにした。「古池や蛙飛びこむ水のおと」を単体で鑑賞させずに，比較鑑賞させた理由は，比較することにより鑑賞の視点を獲得させ，それをいかして鑑賞を深めることにより，芭蕉の句の魅力に迫り，資質・能力を育めるのではないかという仮説を持ったからである。

2)本学習プログラムの学習目標

2 句の比較鑑賞を通じて，作品の鑑賞を深め，描かれた情景や世界観を探ることで，芭蕉の句の魅力に迫る。

3)本学習プログラムにより明らかにすること

比較鑑賞の際，どのような言葉や表現に着目して，俳句の鑑賞を進めているのかということを分析することで，生徒の思考過程を明らかにする。また，その思考過程を分析することで，どのような場面で「言葉による見方・考え方」が働き，そのような場面では，どのような資質・能力が，どのように形成されているのかということを明らかにする。

4)データ収集方法と対象

生徒の思考過程を追うために，俳句の鑑賞を行った際の生徒発言を，IC レコーダーに記録し，全てを文字に起こした。なお，対象としたクラスは 3 クラス 92 名で，各クラス 6 グループ，計 18 グループを編成し，鑑賞を進めさせた。

5)分析方法

今回の学習プログラムでは，「古池や蛙飛びこむ水のおと」と「古池に蛙飛びこむ水のなか」という 2 句の比較により鑑賞を進めるため，大きな違いである上五「古池や」と「古池に」，下五「水のおと」と「水のなか」を中心に鑑賞活動が進められるのではないかと考えた。また，前時までに，俳句における切れ字の効果についての指導を行ったため，切れ字に着目することで，言葉による見方・考え方を働かせた鑑賞を進め，そこで資質・能力が形成されるのではないかとも考え，この辺りを中心に生徒の発話分析を進めた。

この的を絞った分析が妥当であるのかを実証するため，生徒の発話を形態素解析して，どのような言葉に着目して鑑賞が進められているのかを分析した。形態素解析により，発話内の言葉の出現頻度を調べ，出現回数が 6 回以上の言葉を一覧とした(表 2)。なお，総抽出語数は，15,628 語であった。

一覧にした言葉の中で，出現頻度の高い言葉に着目すると，「水」，「古池」が上位で抜き出ていることが分かる。さらに「切れ字」と「音」も上位で出現していることから，生徒は上五と

（表2）形態素解析による言葉の出現頻度

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
水	211	静か	24	出る	13	大きい	8	外	6
古池	193	見る	23	個	12	読み手	8	結構	6
蛙	144	違う	22	最後	12	比較	8	効果	6
飛び込む	140	池	22	使う	12	付く	8	昔	6
思う	134	読む	22	少し	12	変える	8	切れる	6
芭蕉	132	場面	21	状況	12	本当に	8	続く	6
想像	128	人	20	いろいろ	11	面白い	8	当たり前	6
感じ	98	聞こえる	20	一つ	11	あと	7	飛ぶ	6
音	86	古池	18	句	11	そうですね	7	普通	6
言う	65	他	18	主役	11	どうぞ	7	文字	6
切れ字	50	変わる	17	伝わる	11	一緒	7	平仮名	6
書く	49	風景	16	文	11	過ぎる	7	鳴る	6
俳句	40	ポチャン	15	比べる	10	区切れる	7	来る	6
具体	38	意見	15	魅力	10	全然	7		
分かる	37	様子	15	確か	9	的	7		
情景	36	表現	14	視点	9	表す	7		
カメラ	30	感じる	13	自分	9	たくさん	6		
説明	28	次	13	浮かぶ	9	プラス	6		
入る	28	趣	13	話	9	印象	6		
考える	25	終わる	13	情報	8	下	6		

下五に着目して鑑賞を進めていることが，客観的に分かった。

形態素解析では，鑑賞の過程で生徒が着目した言葉が出現している。そこで，出現している言葉が，どのような場面で，どのように用いられているのかということを分析していくことで，新学習指導要領において教科の本質的な意義とされる「言葉による見方・考え方」がどのように働き，そこでどのような資質・能力が形成されているのか見取ることができるのではないかと考えた。

2 考察

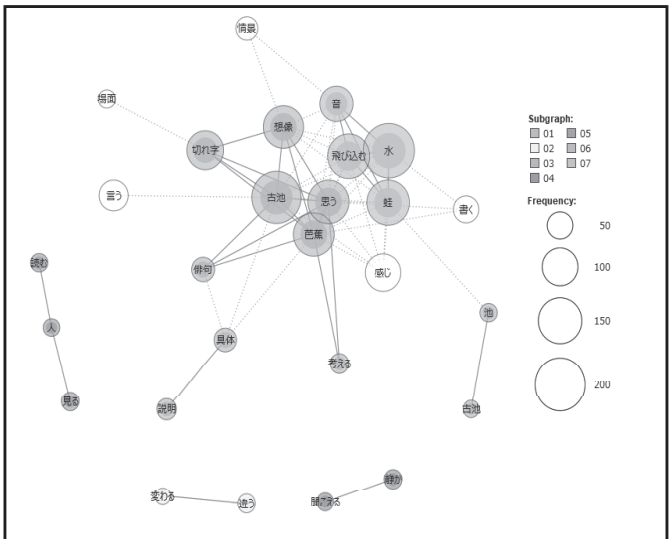
夏井(2014)が，「俳句という舞台における主役に匹敵する言葉」と位置付け，重要視している季語「蛙」については，3番目の出現頻度であった。國原(2021)が，創作俳句の鑑賞において同様に形態素解析を行ったところ，季語は2番目の出現頻度であったが，創作俳句の鑑賞と，芭蕉の俳句の鑑賞における形態素解析を比較して最も違ったことは，「季語」や「季節」という言葉や，具体的な季節に触れた言葉が，芭蕉の俳句の鑑賞では全く現れていなかったことである。これは，芭蕉の作品では，季感を捉えなくてもその世界観や情景が容易にイメージできるからだと考えられる。したがって，今回の鑑賞において，季感を重視して鑑賞に取り組んだ生徒は少なかったと言える。また，他の言葉に比べて出現頻度が相当高くなっている「水」と「古池」という言葉から考えると，生徒は，上五「古池や」と「古池に」，下五「水のおと」と「水のなか」を中心として鑑賞を進めていることが分かる。

そこで，「古池や」という上五に大きく関わり，出現頻度が比較的高い「切れ字」という言葉にも着目し，生徒が「古池や」をどう捉えているのかを分析してみた。その足がかりとするため，「切れ字」という言葉が出現する発言をKWIC(Key Words In Context)で調べてみると，表3のようになった。

（表3）「切れ字」というキーワードが出現する文脈の一例

先行する発話	キーワード	続く発話
説明し過ぎずに相手に考えてもらうところが良いと思います。	切れ字	の効果が大きいです。
「古池に」でしたら完全に具体的に分かるという感じです。	切れ字	があることでそうじゃない情景を*想像*できます。
切れ字の効果が大きいです。	切れ字	が用いられないと説明的過ぎるという感じですか。
芭蕉のほうがいいと思いますよね。	切れ字	を活用して説明的にならずにいろいろな人に*想像*させやすく書いています。
「に」よりも「や」のほうがいいですか。やっぱり。	切れ字	の効果は絶大です。さまざまな*想像*ができますからね。
頭の中で*想像*できるのは凄いと思います。	切れ字	のおかげですね。
「に」では直接に言い過ぎかなと思いました。「や」という	切れ字	だけで色々なことを頭で*想像*できる芭蕉の句はすごいと思います。
芭蕉は「古池や」となっています。「や」という	切れ字	があることでで、どのような古池でしょうと思うことができます。
飛び込む音が聞こえて、その場面をいろいろイメージできます。「や」という	切れ字	でそんなことも*想像*できました。
「に」合は文章のようで俳句らしくないですが、「や」という	切れ字	使うことで場面が分かりやすく区切れ、俳句らしくなっています。
「に」だと水の中にいて蛙が飛び込んできたような事実だけしか思い描けません。	切れ字	のおかげで色々*想像*できます。
「や」という	切れ字	は、読み手に場面を*想像*させる効果がありますね。
芭蕉は「や」という	切れ字	を用いることで、読み手が*想像*するような表現になっています。
「古池」は、「に」よりも「や」という	切れ字	のほうが読み手に*想像*させることができる。
「古池や」という方が、なんか、「どんな古池なんだろうか」と	切れ字	により*想像*できますよね。
「古池に」ですと、	切れ字	ではありませんので、どうしても古池が具体的に*想像*されすぎます。
「や」という	切れ字	を「古池」につけることでどんな古池なのか*想像*できます。
私は芭蕉のほうがいろいろな風景を*想像*しやすかったです。これはきっと	切れ字	の効果かもしれません。
切れ字が付いていることで、場面が切れているということだからですか。	切れ字	のおかげでいろいろな風景を思い浮かべることができると私は思いました。
「古池に」でも*想像*できますけれども、「古池や」と	切れ字	を使うことで具体的に*想像*できます。
「古池や」というように	切れ字	が用いられることで*想像*力を掻き立てられます。

「切れ字」の出現回数は50回であり，出現している文脈を見てみると，そのほとんどに「想像」という言葉が共に用いられていることが見て取れる。この結果から，作品を読む者に想像の余地を与えることで，作品の中に引き込み，句に余韻を与えるという切れ字の効果や役割に生徒は着目し，知識として学習した切れ字を汎用的に活用しながら，鑑賞を進めていることが分かる。



（図1）鑑賞における話し合い活動での共起ネットワーク

切れ字というキーワードが出現する文脈の一部だけではなく，話し合いの全体像を正

確に，かつ客観的に捉えるためにKHcoderを用いて共起ネットワーク分析を行うと図 1 のようになった。共起ネットワーク分析では，ノードとなる単語の出現回数を 50 回以上（上位 60 単語）と規定し，動詞も含んだ分析結果が表示されている。また，生徒発言の中に出てくる言葉と言葉の関係性を，それぞれの言葉の出現傾向から読み解き，ネットワークで図式化されている。ノードの大きさは言葉の出現頻度に基づき，ノードの繋がりは共起頻度が高いことを示し，共起頻度が高いものはノードを結ぶ線が実線で描写されている。

この共起ネットワークをみると，「切れ字」と言う言葉が，「古池」，「想像」，「思う」に強く繋がっていることを読み取ることができる。さらに，表 4 には「切れ字」の関連語を検索し，Jaccard 係数を算出して，一覧にした。

（表4）「切れ字」の関連語

N	抽出語	全体	共起	jaccard係数	N	抽出語	全体	共起	jaccard係数
1	想像	103 (0.173)	29 (0.439)	0.2071	6	場面	17 (0.028)	10 (0.152)	0.137
2	古池	142 (0.238)	34 (0.515)	0.1954	7	飛び込む	91 (0.152)	17 (0.258)	0.1214
3	思う	98 (0.164)	26 (0.394)	0.1884	8	感じ	76 (0.127)	15 (0.227)	0.1181
4	芭蕉	111 (0.186)	27 (0.409)	0.18	9	使う	12 (0.020)	8 (0.121)	0.1143
5	効果	11 (0.018)	11 (0.167)	0.1667	10	水	121 (0.203)	19 (0.288)	0.1131

Jaccard 係数を見ると，「切れ字」という言葉と関連がある言葉は，Jaccard 係数が 0.1 を超える表 4 のような言葉である。また，Jaccard 係数が 0.2 を超える「想像」という言葉は，「切れ字」と強く共起している言葉である。KWIC，共起ネットワーク，Jaccard 係数から，生徒は，「切れ字」により「想像」を働かせながら鑑賞を進めていることがうかがえる。これはつまり，「古池や」という上五を，たんに「古池がある」と捉えるのではなく，作品の中で用いられている言葉を手がかりとして，作品に入り込み，想像力を働かせた鑑賞を進めているということである。

そこで，次は生徒の具体的な発話記録を分析することで，このような鑑賞が行われている場面を探ってみた。作品の中で用いられている言葉を手がかりとして，想像力を働かせるような鑑賞を進める場面では，「言葉による見方・考え方」が働き，資質・能力が形成されていると考えたからである。

具体的発話

A:芭蕉の「古池や」のほうが，俳句っぽいですよね。「や」ってところがすごく俳句っぽいです。
B:そうですね。でも，ただ俳句っぽいだけではなく，「や」という切れ字を「古池」につけることでどんな古池なのか想像できます。
C:「古池に」と「古池や」では，与えるイメージが全く違いますね。
D:「古池に」でしたら完全に具体的に分かるという感じです。切れ字があることで，そうじゃない情景を想像できます。
B:「や」というたった 1 字ですが，句全体のイメージを広げてくれますね。芭蕉の方は「おと」という終わり方もいいですね。「水のなか」ですと想像しにくいです。
D:僕も同じで，「水のおと」と終わることで，音のイメージが湧きます。これにも「や」の効果がありませんか。
A:どういうことですか。
D:「古池や」とすることで，いったんどんな古池か想像するでしょう。だから，「水のおと」がはっきりと聞こえるような静かな雰囲気にある古池を僕は想像しました。「古池に」だと，すっと流してしまう感じで，そこまでの状況は想像しないと思います。
A:たしかにそうですね。「古池や」で 1 度立ち止まるなら，「水のおと」がはっきり聞こえる静かな景色を思い浮かべることができます。ここに芭蕉の俳句の魅力があるんですかね。
C:「古池に」というのは，少し具体的過ぎて池しか頭に浮かばないけど，切れ字があると池だけではなく，池の周囲の様子まで想像できるようになるということですね。たった 1 字ですが，与える印象がこんなに変わるんですね。

具体的な発話を見ると，「や」という切れ字に関してグループで鑑賞を進めていくことで，切れ字の役割や働きに着目しながら，作品の世界観や情景を深めていることがうかがえる。生徒 B と生徒 D は，「や」という切れ字のおかげで，「古池」が説明され過ぎず，「古池」がどのような池であるのか想像することができると指摘している。さらに生徒 D は，「古池」のことだけではなく，切れ字が下五の「水のおと」にまで影響があるのではないかと考えた。この生徒 D の発言により，他のメンバーは，

「古池」にだけ着目するのではなく，その周囲の情景にまで思いを馳せることができ，作品の世界観や情景を深めることができた。「古池」と切れ字である「や」，それから「水」，「おと」といった言葉と言葉の関係を，鑑賞を通じて問い直していくことで，作品全体の解釈を深化させることができた場面であると言える。

共起ネットワークで確認すると，「切れ字」は「想像」，「古池」，「場面」と共起している。また，表 4 において Jaccard 係数が最も高い「想像」は，共起ネットワークでは「音」や「情景」と共起している。このことから考えても，生徒は，「切れ字」から，「古池」や「場面」の具体的なイメージを「想像」し，その「情景」やそこに響き渡る蛙の飛び込む「音」に思いを馳せることで，作品全体の解釈を深化させていると言える。とりわけ，生徒 A は，当初，芭蕉の作品を「俳句っぽい」という感覚的なものだけで評価をしていたが，グループでの鑑賞活動を通じて，切れ字である「や」の働きに着目することができ，それにより「水のおと」がはっきり聞こえるような情景を思い浮かべ，自らの作品に対する価値を変容させ，論理的に芭蕉の句の魅力を捉えることができるようになった。

共起ネットワークや Jaccard 係数，生徒の具体的発話を手がかりとした今回の分析から，作品の中で用いられている言葉を手がかりとして，想像力を働かせるような場面において，作品に用いられている言葉の意味や使い方に着目し，それらを問い直していくという形で「言葉による見方・考え方」が働いていることが明らかになった。また，このような場面で生徒は，作品の新たな価値に気付き，言葉への自覚を高めていくことで，考えを形成し，深化させる力，言葉によって感じたり想像したりする力，また，それを言葉にしていく力といったような資質・能力を育んでいることを明らかにすることができた。

Ⅴ．おわりに

本稿では，俳句の海外展開や，国内における特別支援教育での教材活用から俳句の教材としての有用性を再考した。また，本年度改訂された全ての検定済教科書における俳句の教材を比較し分析することで，生徒の資質・能力を育むためには，どのような俳句教材が有効であるのかを考察した。さらには，俳句の鑑賞における生徒の思考過程を追うことにより，「言葉による見方・考え方 」がどのように働き，どのような資質・能力が形成されているのかということを探った。

その結果，俳句には教材として大きな有用性が存在し，時には教科書に掲載されていない作品を教材とすることで，学びに向かう力や思考力・判断力・表現力といった資質・能力を効果的に育むことができることが分かった。また，俳句の鑑賞活動では，作品の中で用いられている言葉を手がかりとして，想像力を働かせるような場面において，「言葉による見方・考え方」が働き，そこで言葉への自覚を高め，資質・能力が形成されていることを明らかにすることができた。

桑原(1976)は，俳句を他の芸術と区別するべきとし，強いて芸術の名を使うのであれば「第二芸術」として区別し，学校教育からは締め出すべきだと論じた。しかし，俳句の教材としての有用性，また，俳句の鑑賞では「言葉による見方・考え方」が働き，資質・能力を育むことができるということを考えると，俳句には教材的価値の高さが十分有ると言える。したがって，これからも俳句に関する実践を重ねていくことで，俳句教材が生徒の資質・能力の育成に有効であることを明らかにし，教材的価値の高さの実証を進めていきたいと考えている。

注

1) Heuvel, Cor van den（ed.）（1986）*The Haiku Anthology: Haiku and Senryu in English.* Revised Edition. New York /Tokyo（Simon & Schuster），129　訳は横道による。

2) Op. cit., 255　訳は横道による。

引用・参考文献

桑原武夫（1976）「第二芸術」，講談社文庫

Heuvel, Cor van den（ed.）（1986）*The Haiku Anthology: Haiku and Senryu in English.* Revised Edition. New York / Tokyo（Simon & Schuster）

佐藤紘彰（1987）「英語俳句―ある詩形の広がり」，サイマル出版会，22

坪内稔典（1999）「坪内稔典の俳句の授業」，黎明書房

夏井いつき（2000）「子どもたちはいかにして俳句と出会ったか」，創風社出版

山本健吉（2006）「芭蕉　その鑑賞と批評」，飯塚書店

藤井圀彦・習志野市立大久保小学校国語科研究部（2008）「言葉の力をつける俳句単元の計画と指導」，明治図書

植山俊宏（2009）「短詩形文学の特長を活かす教材開発が重要―学習者の生活に根ざす短歌・俳句―」，教育科学国語教育 8 月号，89-91 明治図書

外山滋比古（2010）「省略の詩学―俳句のかたち」，中公文庫

林涼子（2011）「伝統的な言語文化中学校での実践例―討議力を高める句会の実践」，ことばの学び（24），14-15，三省堂

中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」

植坂友理・光嶋明善（2013）「創作と鑑賞の一体化を取り入れた俳句指導－国語における新たな単元構成の提案－」，教育心理学研究，398-411，日本教育心理学会

吉樂均（2013）「根拠を明確に示して自分の考えを説明する力を高める指導－論理のピラミッドを活用した俳句の鑑賞の授業実践から－」，教育実践研究（23），19-24，上越教育大学

中島賢介（2013）「発達過程に応じた俳句創作指導法の研究」，北陸学院短期大学紀要（40），33-42

頼岡由美（2013）「短歌・俳句に学ぶことばの力－主体的に活動する場をどう作るか」，国語教育研究（54），33-42，広島大学国語教育学会

渡辺哲男（2014）「わたしが与える「自由」は「不自由」？―特別支援学校における句会の授業を手がかりとして―」，立教大学教育学科研究年報 57 号，73-89

夏井いつき（2014）「赤ペン俳句教室」，朝日出版社

公益社団法人俳人協会（2015），「改訂学校教育と俳句」

文部科学省（2017a）「中学校学習指導要領解説　国語編」

文部科学省（2017b）「児童生徒の学習評価の在り方について」

冨山哲也編著（2017）「中学校新学習指導要領の展開」，明治図書

奈須正裕（2017）「資質・能力と学びのメカニズム」，東洋館出版

國原信太郎（2017）「句会を通して養う論理的批判力と思考力」，京都教育大学国文学会誌第 45 号，65-74，京都教育大学国文学会

田村学（2018）「深い学び」，東洋館出版

國原信太郎（2020）「我が国の言語文化に関する学習評価 ―俳句の鑑賞における学習評価について―」，教育科学国語教育 1 月号，20-23，明治図書

村中直人（2020）「ニューロダイバーシティの教科書」，金子書房

横道誠（2021）「みんな水の中―「発達障害」自助グループの文学研究者はどんな世界に棲んでいるか―」，医学書院

國原信太郎（2021）「言葉による見方・考え方を働かせた話し合い活動の可視化と集合知の形成について―俳句の相互鑑賞における生徒発言の分析を通して―」，京都教育大学国文学会誌第 49 号，45-58，京都教育大学国文学会

附記

・本研究は，JSPS 科学研究費補助金（科研費）21H03981 の助成を受けたものである。

・本研究報告は，國原，横道が協議を重ねた上で，次のように執筆を分担した。

　Ⅰ：國原，Ⅱ：横道，Ⅲ：國原・横道，Ⅳ：國原，Ⅴ：國原（全章，検討は両者で行った。）

・発話プロコトルは録音記録により文字化したが，発言の内容をとらえやすくするため，発言者の方言や口調の修正を行い，ですます調に整文している。